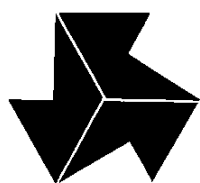


平成22年度 長野県高等学校新人体育大会 アーチェリー競技

日時 平成22年11月7日(日)
場所 木島平村三本松ジュニアサッカー場



高体連新人大会

挑戦的に・意欲的に・やりがい求めよう

主催 長野県高等学校体育連盟
長野県教育委員会

共催 (財)長野県体育協会

主管 長野県高体連アーチェリー専門部

県高体連ホームページ <http://www.ngn-hssp.org> Eメール koutairen.@ngn-hssp.org
専門部ホームページ <http://www.ngn-hssp.org/archery> Eメール archery@ngn-hssp.org
専門部問い合わせ先 長野県篠ノ井高等学校 TEL 026-292-0066 担当 福島 哲夫

大会役員

名誉会長	阿部 守一					
名誉顧問	矢崎 和広	和田 恭良				
大会長	小松 茂美					
副大会長	中村 公雄	茶鍋 和統	高見澤 正彦	米山 明廣		
	吉原 清和	長井 丈夫				
	高橋 康人					
顧問	野村 稔	高木 蘭子	伊藤 かおる	耳塚 寛明		
	萩原 清	林 泰章	児玉 幹夫	小坂 健介		
	小口 正行	山口 利幸	長澤 一男	荒深 重徳		
	古田 芙士					
参与	小林 一雄	飛沢 文人	島田 徳一	豊田 雄三		
	長野県高等学校体育連盟加盟高等学校長					
大会委員長	鏡味 照明					
大会副委員長	夏目 幸吉	土屋 茂夫	太田 良美	野村 勝巳		
	福島 哲夫					
委員	井川 清海	佐藤 厚彦	北村 桂一	村上 正之		
	渡邊 武志	玉木 厚	小林まゆみ	矢島 淳子		
	長野県高等学校体育連盟理事					

競技役員

総務委員長	福島 哲夫					
競技委員長	村上 正之					
D O S	篠原 正俊					
審判長	渡邊 武志					
審判員	小林 まゆみ	田村 俊一	若月 匡史			
	玉木 厚	有賀 龍禎	清水 和美			
進行放送	福島 哲夫					
計時信号	篠原 正俊					
記録	高橋 明雄					
救護	小林 まゆみ					

記録補助員 篠ノ井高等学校アーチェリー一部部員
長野南高等学校アーチェリー一部部員
上田西高等学校アーチェリー一部部員

飯山赤十字病院 0269-62-4195 飯山市大字飯山 226-1
岳北消防本部 0269-62-0119 飯山市大字木島 357-6

日程

11月6日(土)

10:00 会場設営, 選手受付
13:00 公式練習

11月7日(日)

8:00~ 会場設営
9:00 開会式
9:30~ 競技 シングルラウンド前半(90/70m, 70/60m)
11:50~ 昼食
12:40~ 競技 シングルラウンド後半(50m, 30m)
15:30~ 得点集計 会場片付
16:30 表彰式、閉会式
成績発表
表彰
17:00~ 解散

競技規定 2010-2011 (財) 全日本アーチェリー連盟競技規則による。

競技方法

- (1) 競技は全国高等学校選抜大会方式(FITA シングルラウンド), および50・30mラウンドで行う。
1標的3名で同時利用し、ABC1立制とする。90m、70m、60mにおいては、122cm的紙で6本4分、50m、30mは80cm的紙で、いずれも2分3本完射とする。
- (2) 練習は、試射とし4分6本完射を1回、競技前に行う。
- (3) 競技中の服装は、全国総体に準じる。なお、事前に申し出があった場合に限り、例外を認める。
服装は、マネージャーを含めチームで統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣までとする。
 - ・上衣 学校名は背面もしくは全面に、都道府県名は右腕の袖口に、それぞれ1箇所明示する。
いずれも弓具装着時に視認できるもの。その他の名称等は表示しない(その他の名称とは学校やクラブの愛称を含む)。なお、同一デザインであれば、長袖、半袖が混合してよい。
 - ・下衣 競技に適した形態で、無地で単一色のスラックスまたはショートパンツ。女子はスカート(キュロットスカートも含む)も可。なお、ショートパンツは、競技者が腕を垂らした時の指先よりも長く、膝頭が見えるもの。スラックスとショートパンツの混在は認めない。また、綿パン、オーバーサイズ、バギーパンツ、スエット、デニム等は競技用としては認めない。
 - ・帽子、靴、靴下 白を基調とし統一する。靴については運動競技用のシューズ(カジュアル、ダンス、タウン用等競技に適さないものは認めない)とし、靴下についてルーズソックス等は認めない。
- (4) 弓具検査は、試合中に随時、審判がおこなう。
- (5) 競技場内の立ち入りは、認知書に書かれた監督・マネージャーのみとする。また、監督・マネージャーは、競技中、WWLまで立ち入ることができる。なお、SL上の選手に対し、「合図またはサイン等による教示」をおこなったと判断される場合、即時、競技場内から退場処分とし、以降の立ち入りを禁止する。
- (6) 携帯電話等を競技場内で使用すること、着信音を鳴らすことは厳禁とする。
- (7) 競技は、カウントダウンタイマー付視覚信号機と電子音による聴覚信号音を併用しておこなう。
- (8) スコープの高さは脇の下の高さを超えてはならない。

- (9) 記録用紙への記入はすべて選手がおこない、選手氏名はフルネームで、楷書体で記入する。
- ・その矢を所有する競技者の呼称に従って、高い得点から順に記録用紙に記入する。
 - ・同じ標的の他の競技者は、呼称、記録される矢の得点を以下の表に従って確認する。
 - ・役割等を拒んだ場合は、競技会への参加資格を失う。また、虚偽が発生した場合、当該選手または同標的選手全員を失格とすることもある。

順位	得点記録の順序 ／業務分担の例	ゼッケン A	ゼッケン B	ゼッケン C
1	A の得点記録	得点呼称	記入	確認
2	B の得点記録	確認	得点呼称	記入
3	C の得点記録	記入	確認	得点呼称

- (10) 矢が標的面から抜かれる前に発見されたスコアカード記載ミスは、その標的の全競技者が同意すれば、審判を呼ばずに訂正できる。しかしその場合、その標的のすべての競技者が確認し、スコアカードにサインする。なお、1年生は指導上、これまで通り矢取り前に審判員の確認を受け、訂正は審判員が赤ボールペンで行い確認印を捺印する。
- (11) 競技中、行射により矢を紛失した場合、直ちに審判員へ報告する。
- (12) 記録は、掲示されてから 10 分間、異議申し立てを受付ける。なお、異議申し立てについては、監督を通じて競技本部で受付け、競技委員会の裁定を持って最終決定とする。

